ソ連共産党指導部は現代最大の分裂主義者である

ソ連共産党中央委員会の公開書簡を評す（七）

外文出版社

北　京

ソ連共産党指導部は現代最大の分裂主義者である
ソ連共産党中央委員会の公開書簡を評す（七）

1964年　初版発行

出版者　外文出版社
（北京阜成門外百万莊）

発行者　中国国際書店
（北京 P. O. B. 399）

編号：（日）3050—891　　3—J—579P
00034

ソ連共産党指導部は現代最大の分裂主義者である

ソ連共産党中央委員会の公開書簡を評す（七）

『人民日報』編集部
『紅旗』誌編集部

（1964年2月4日）

外文出版社
北京

ソ連共産党指導部は現代最大の分裂主義者である

ソ連共産党中央委員会の公開書簡を評す（七）

『人民日報』編集部
『紅旗』誌編集部

（一九六四年二月四日）

国際共産主義運動の団結は、現代修正主義思潮のはんらんによって、こんにちほど重大な脅威にさらされたことはかつてなかった。国際的な範囲でも、いちぶの党の内部でも、マルクス・レーニン主義と修正主義のはげしい闘争がおこなわれている。国際共産主義運動は、かつて見ない重大な分裂の危険に直面している。

社会主義陣営の団結をまもり、国際共産主義運動の団結をまもること、これは全世界の共産主義者、プロレタリアート、革命的人民のまえに提起されたさしせまった任務である。

中国共産党は一貫して、マルクス・レーニン主義にもとづき、一九五七年の宣言と一九六〇年の声明の革命的原則にもとづいて、社会主義陣営の団結と国際共産主義運動の団結をまもり、こ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

れをつよめるために、たゆまぬ努力をはらってきた。過去、現在、将来をとわず、中国共産党の確固不動の立場は、原則を堅持し、団結を堅持し、意見の相違をとりのぞき、共同して敵にあたることである。

ソ連共産党指導部は、修正主義の道へふみだしていらい、じぶんたちも国際共産主義運動の団結をまもるために力をつくしているとしきりに弁明してきた。さいきん、かれらはとくにやっきになって、「団結」を叫んでいる。これを耳にするにつけ、九十年まえエンゲルスのいったことばを思いださざるをえない。エンゲルスはつぎのようにのべたのであった。「『団結』の叫びにまどわされてはならぬ。このスローガンをもっともひんぱんに口にするものこそ、分裂をあおりたてている張本人である」。「最大のセクト主義者や論争をこととする者、悪党は、あるときには、だれよりも大きな声で団結をわめきたてるものである」（『マルクス・エンゲルス書簡集』）と。

ソ連共産党指導部は、「団結」の看板をかかげるとともに、中国共産党に「分裂主義」のレッテルをはりつけようとたくらんでいる。ソ連共産党中央委員会の公開書簡は、「中国の指導者は、社会主義陣営の団結を破壊しているばかりか、世界共産主義運動ぜんたいの団結を破壊し、プロレタリア国際主義の原則をふみにじり、乱暴にも兄弟党の相互関係についての準則にそむい

ている」とのべた。そのご、ソ連の新聞、雑誌は多くの文章をかかげて、中国の共産主義者は「セクト主義者」、「分裂主義者」であると非難しつづけている。

だが、ことの真相はどうであろうか。いったい、だれが社会主義陣営の団結を破壊し、だれが国際共産主義運動の団結を破壊し、だれがプロレタリア国際主義の原則をふみにじり、だれが乱暴にも兄弟党の相互関係についての準則にそむいているのか。ひと言でいえば、いったいだれがほんとうの、かけ値なしの分裂主義者であるのか。

これらの問題をはっきりさせるのでなければ、社会主義陣営の団結と国際共産主義運動の団結をまもり、強める道を見つけだすことはできないし、分裂の危険をのりこえることはできない。

歴史の回顧

当面の国際共産主義運動における分裂主義の性質をはっきりさせ、分裂主義に反対するたたかいを正しくおしすすめるためには、ここ百余年らいの国際共産主義運動の歴史をふりかえってみるのも有益なことであろう。

共産主義運動の発展の歴史は、マルクス・レーニン主義と日和見主義とのたたかいにつらぬかれ、団結をまもることと分裂をつくりだすこととのたたかいにつらぬかれている。これは一国の

範囲内でもそうであるし、国際的な範囲内でもそうである。長期にわたるたたかいのなかで、マルクス、エンゲルス、レーニンは、理論的にプロレタリアートの団結の真髄を解明するとともに、かれらの実際行動をもって日和見主義、修正主義、分裂主義に反対するかがやかしい手本をしめした。

一八四七年、マルクスとエンゲルスは労働者の最初の国際組織、つまり共産主義者同盟をつくった。マルクスとエンゲルスはこの同盟のために書いた綱領『共産党宣言』のなかで、「万国の労働者、団結せよ！」という戦闘的な呼びかけをうち出し、科学的共産主義の学説にたいして体系立った、つっこんだ解明をおこない、国際プロレタリアートの団結の思想的基礎をおいた。

マルクスとエンゲルスは、この原則にもとづく国際プロレタリアートの団結のために、生涯を通じてたゆまず努力をつづけた。

一八六四年、マルクスとエンゲルスは各国の労働運動を結束させるために、第一インター、つまり国際労働者協会をつくった。第一インターの存続した全期間を通じて、マルクスとエンゲルスはバクーニン派、プルードン派、ブランキー派、ラッサール派その他の分派と原則的なたたかいをおこなった。なかでも、分裂主義者バクーニン派との闘争はとくにはげしかった。

バクーニン派ははじめからマルクスの学説を攻撃し、マルクスは「インターのなかにじぶんの

特殊な綱領とじぶん一個人の学説を確立させ」ようとしていると非難した。その実、じぶんの分派的信条をインターにおしつけ、バクーニンの日和見主義的綱領をインターの綱領におきかえようとくわだてたのは、ほかならぬかれらであった。かれらは一連の陰謀をたくらんで手段をえらばず、じぶんの「多数」をかきあつめ、セクト的活動と分裂活動をすすめた。

マルクスとエンゲルスは、国際プロレタリアートの真の団結をまもるため、第一インターの分裂をはかったバクーニン派の公然たる挑戦にたいし、原則のうえでいささかも妥協しない態度をとった。一八七二年、マルクスがみずから出席したインターのハーグ大会で、あくまで分裂主義をとりつづけたバクーニン派は第一インターから除名された。

エンゲルスは、もしもマルクス主義者がハーグでバクーニン派の分裂活動に無原則的な妥協的態度をとったなら、かならず国際労働運動にゆゆしい結果をもたらしただろうとのべたことがある。エンゲルスは、「このような状況のもとでは、インターはたしかにほろんだだろう、『団結』のためにほろんだだろう」（『マルクス・エンゲルス書簡集』）と指摘した。

第一インターはマルクスとエンゲルスの指導のもとで、日和見主義と分裂主義に反対し、国際労働運動におけるマルクス主義の支配的地位のために基礎をおいた。

一八七六年、第一インターが解散を宣言したのち、多くの国に大衆的な社会主義労働者政党が

あいついで生まれた。マルクスとエンゲルスはこれらの政党の結成と発展をじっと見まもり、これらの政党が科学的共産主義の基礎のうえにうちたてられ、発展することをのぞんだ。

マルクスとエンゲルスは、当時ヨーロッパの労働運動で重要な地位をしめていたドイツの労働者政党に、特別の注意と関心をよせた。かれらはいちどならず、ドイツ社会民主党がいわゆる「団結」をもとめて日和見主義と妥協するという腐敗した気風をきびしく批判した。

一八七五年、マルクスとエンゲルスは、ドイツ社会民主党が原則をすててラッサール派と合併したことと、そのことから生まれた『ゴータ綱領』を批判した。マルクスは、この合併は「あまりにも高い代価を払ってえられたものであり」、「この綱領はまったく好ましからぬものである。それは党を瓦解させるだろう」（『マルクス・エンゲルス二巻選集』第二巻）と指摘した。エンゲルスは、これは「ドイツの社会主義的プロレタリアートぜんたいのラッサール派への降伏である」と指摘し、「このような基礎のうえでの合併はものの一年ももたないと確信する」（『マルクス・エンゲルス二巻選集』第二巻）とのべた。

マルクスは『ゴータ綱領』を批判しなさい、マルクス主義者は「けっして原則をもって取り引きをするようなことは絶対にしない」（『マルクス・エンゲルス二巻選集』第二巻）という有名な原則を提起した。

そのご、マルクスとエンゲルスはまた、ドイツの党の指導者が日和見主義分子の党内での活動をゆるしたことをきびしく批判した。マルクスは、これらの日和見主義分子は「正義、自由、平等、博愛の女神についての現代神話を唯物論の基礎にとってかわらせようとしている」、これは「党と理論をだいなしにする」ものであるといった。マルクスとエンゲルスはドイツの党の指導者にあてた『通告書』のなかで、こう書いている。「こと四十年近いあいだ、われわれは階級闘争を歴史の直接の動力とみなして、それをひじょうに重視してきた。とくにブルジョアジーとプロレタリアートのあいだの階級闘争を現代社会変革の大きなテコとみなして、それを重視してきた。したがって、われわれは、運動のなかからこの階級闘争を解消しようとする人たちとともに歩むことはけっしてできない」（『マルクス・エンゲルス書簡集』）

一八八九年、エンゲルスの影響のもとに第二インターが生まれた。第二インターは資本主義の「平和」な発展の時期にあった。この期間、一方では、マルクス主義がひろく伝播され、『共産党宣言』が世界各国のいく百千万の労働者の共同綱領となった。他方では、多くの国の社会主義政党がブルジョア的合法性の利用をそれへの盲目的な崇拝と合法主義にかえ、各国の党内に日和見主義をはんらんさせた。

そのため、第二インターの全期間を通じて、国際労働運動は、革命的マルクス主義派とマルク

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

ス主義を詐称する日和見主義派との二大分派にわかれた。

エンゲルスは日和見主義者と妥協なきたたかいをおこなった。エンゲルスは、資本主義の社会主義への平和的成長というかれらのまちがった理論をとくにきびしく批判した。エンゲルスは、つぎのようにいった。マルクス主義を詐称する日和見主義者にたいして、「マルクスはたぶんハイネがその模倣者にいったことばをこれらの先生がたに贈ることであろう――『わたくしがまいたのは竜のたねであるが、とれたのはノミであった』と。」（『日和見主義に反対したマルクスとエンゲルス』、中国人民出版社一九五八年版）

一八九五年にエンゲルスが世を去ると、これらの「ノミ」は登場して、公然と系統的にマルクス主義を修正し、しだいに第二インターの指導的地位をのっとるようになった。

偉大なレーニンはエンゲルスの亡きあと、国際労働運動のもっともすぐれた革命家として、マルクス主義をまもり、第二インターの修正主義に反対するという重大な任務をになった。

第二インターの修正主義者たちがマルクス主義はすでに「不完全な」、「時代おくれのもの」になったとわめきたてたとき、レーニンは、「われわれは完全にマルクス理論の基礎のうえに立っている」、「なぜなら、このような理論だけがすべての社会主義者を結集できるからだ」（レーニン『われわれの綱領』、『レーニン全集』第四巻）とおごそかに宣言した。

レーニンはまずロシアにマルクス主義的政党をつくるため奮闘した。第二インターの日和見主義的政党と根本的に異なる新しい型の政党をつくるため、レーニンはロシア社会民主労働党内部のいろいろな反マルクス主義的分派と妥協なきたたかいをすすめた。

当時のロシア社会民主労働党の内部には、第二インターの他の党とおなじく、革命派と日和見主義派が存在していた。革命派とはレーニンの指導するボルシェビキのことであり、日和見主義派とはメンシェビキのことである。

レーニンの指導するボルシェビキは、プロレタリア政党の純潔と統一をまもるため、理論面と政治面でメンシェビキと長期にわたるたたかいをすすめ、一九一二年ついに、日和見主義と分裂主義を固執するメンシェビキを党から一掃した。

レーニンに反対するすべての日和見主義的分派はもっとも悪どいことばをつかって、レーニンをののしった。かれらはあらゆる手をつくして、レーニンに分裂主義の罪名をかぶせようとした。当時、トロツキーはレーニンに反対するあらゆる分派をかきあつめ、「非分派性」の旗をかかげて、レーニンとボルシェビキ党をさかんに攻撃し、レーニンは「簒奪者」であり、「分裂屋」であるとののしった。レーニンはこれにこたえて、「非分派性」の看板をかかげるトロツキーこそ、「もっとも悪質な分派活動の残余のもっとも悪質な代表者」であり、「もっとも悪どい

分裂派の最たるもの」（レーニン『統一の叫びにかくれた統一の破壊について』、『「八月」ブロックの分解について』、『レーニン全集』第二〇巻）であるといった。

レーニンはつぎのようにはっきりと表明した。「統一、これは偉大な事業であり、偉大なスローガンである！　だが、労働者の事業が必要としているのはマルクス主義者の統一であって、マルクス主義者と、マルクス主義に反対し、これを歪曲するものとの統一ではない」（レーニン『統一について』、『レーニン全集』第二〇巻）

レーニンのメンシェビキにたいするたたかいは、大きな国際的意義をもっていた。なぜなら、メンシェビキは第二インターの修正主義のロシア的形態または変種であって、第二インターの修正主義的指導者たちの支持をうけていたからである。

レーニンはメンシェビキに反対するとともに、第二インターの修正主義にたいしても一連のたたかいをすすめた。

第一次世界大戦のまえ、レーニンは理論面と政治面で第二インターの修正主義者を批判したほか、第二インターのシュトゥットガルト会議とコペンハーゲン会議に出席して、かれらとたたかった。

第一次世界大戦の勃発で、第二インターの指導者たちは、プロレタリアートを公然と裏切っ

た。かれらは帝国主義の利益のために各国のプロレタリアートを互いに同士討ちさせ、国際プロレタリアートのもっともゆゆしい分裂をつくりだした。ルクセンブルグもいったように、修正主義者は「いぜんの誇らかなスローガン『万国の労働者、団結せよ！』を、いまは戦場で『万国の労働者、殺しあえ！』に変えてしまった」（ローザ・ルクゼンブルグ『講演・論文集』第二巻、一九五一年ベルリン版）のである。

当時、第二インターのなかでもっとも勢力があり、もっとも影響力があった党は、マルクスの故国ドイツの社会民主党であった。ところが、ほかならぬこの党がまっさきにドイツ帝国主義の側に立ち、国際労働運動分裂の張本人となったのである。

この緊急のさい、レーニンは身を挺して、国際プロレタリアートの団結をまもるためにだんことしてたたかった。

レーニンは一九一四年八月に発表した『革命的社会民主党のヨーロッパ大戦における任務』という論文のなかで、第二インターの破産を宣言するとともに、第二インターの大多数の指導者、とくにドイツ社会民主党の指導者たちが社会主義を直接に裏切った行為をはげしく非難した。

第二インターの修正主義者がブルジョアジーとのひそかな同盟から公然たる同盟に転じたこと、かれらが国際労働運動のなかでもはや挽回しようのない分裂の情勢をつくりだしたこと、こ

うしたことにたいし、レーニンはつぎのように指摘した。「いまや、日和見主義とだんこ決裂せず、日和見主義のかならず失敗する必然性を大衆に説明しないなら、社会主義の任務をなしとげることはできないし、労働者の真の国際主義的団結を実現することはできない」（レーニン『戦争とロシア社会民主党』、『レーニン全集』第二一巻）と。

だからこそ、レーニンは、ヨーロッパの多くの国ぐにのマルクス主義者が日和見主義者と決裂することをだんこ支持したし、第三インターをつくって、すでに破産した第二インターにとってかわらせ、国際プロレタリアートの革命的団結を再建するよう、勇敢に呼びかけたのであった。

一九一九年三月、第三インターが生まれた。第三インターは第二インターの活動の成果をうけつぎ、その日和見主義的、社会排外主義的な、ブルジョア的、小ブルジョア的なけがらわしいものを一掃し、国際プロレタリア革命の事業をひろく深く発展させた。

レーニンの理論と実践は、マルクス主義を新たな発展段階、つまりレーニン主義の段階におしすすめた。マルクス・レーニン主義を基礎として、国際プロレタリアートの団結、国際共産主義運動の団結は、いつそう強化され拡大された。

経験と教訓

国際共産主義運動の発展の歴史はなにを物語っているか。

第一に、国際共産主義運動の歴史は世界のあらゆる事物と同じように、国際労働運動も総じて、一つから二つに分かれるということを明らかにしている。プロレタリアートとブルジョアジーとの階級闘争は、不可避的に共産主義の隊列のなかに反映してくるものである。共産主義運動の発展過程で、不可避的にあれこれの日和見主義が生まれ、不可避的にマルクス・レーニン主義に反対する日和見主義の分裂活動が生じ、また不可避的に日和見主義と分裂主義に反対するマルクス・レーニン主義の闘争が引きおこされるのである。マルクス・レーニン主義と国際労働運動は、まさにこのような対立面のたたかいのなかで発展してきたのである。マルクス・レーニン主義を基礎とする国際労働運動の団結も、まさにこのような対立面のたたかいのなかで強固になり、強化されてきたのである。

エンゲルスはかつて、「プロレタリアートの運動は必然的にいろいろな発展段階を経るものである。そしてどの段階でも、いちぶの人がたちどまって、それ以上前進しないのである。この点だけでも、なぜ『プロレタリアートの一致団結』は実際上、どこでも互いに生きるか死ぬかの闘争をおこなっているいろいろな党派の形で実現されるか、ということを物語っている」（『マルクス・エンゲルス書簡集』）とのべたことがある。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.